

【巻頭言】

学友会理事に就任して

錦 成郎(54 回生)



学友便りなどがきっかけで母校に想いを馳せるとき、不意に京都放射線技術専門学校時代のことを思い出すことがあります。私に本学との縁を取り持ってくれたのは、母親の勤め先の診療放射線技師さんでした。当時は大学受験に完敗して予備校のオリエンテーションを受けた頃だったと思います。「京都にある放射線技師の学校はとても評判がよいから、今からでも受験してみたら」と母親に勧めてくれたようです。浪人生活から抜け出せるチャンスとばかりに本屋で試験日程を調べたところ、既に1次試験は終了していましたが、運よく2次試験に合格できた結果が今の私です。人生の機微を知る思いです。

さて、学生になってから感じたことは、多くの誇れる教授陣と国家試験合格という明確な目標を共有して学ぶ環境の素晴らしさでした。僭越ながら、山田先生や西谷先生の講義は秀逸でした。この時に基礎を徹底的に叩き込んでいただいたことで今がある。といっても過言ではありません。紙面を借用してあらためて深謝申し上げます。

校舎の裏にはテニスコートが1面あり、昼食を済ませた山田先生と西谷先生が毎日のように軟式テニスで汗を流されていました。当時の敷地内にはテニスコート以外に専用グラウンドはなく、その代わりに校舎内の講堂には卓球台が常設されていました。実験実習の時間には、わざと空き時間のある実験計画を立てて卓球に興じたものです。熱中する余り実験をしていることを忘れてはしゃいでいると、下の階から「うるさい！」と山田先生に怒られたことを思い出します。

少し前になりますが、突然、神澤学友会長から電話で、「学友会の理事やってくれへんか」と声をかけていただきました。私だけでなく愚息までもお世話になった身であるのに、これまで何の恩返しもできていないという思いもあって謹んでお引き受けしました。その後、西谷先生から「学友会は技術学会ほど忙しくないから、まあ頑張ってくれ」というありがたい激励のお言葉まで頂戴して、現在、両方やらせていただいています。

今年の6月の始め、さっそく母校で学友会の理事会があったので久しぶりに出かけました。勤め先の病院から約2時間30分近くかかりましたが、京都駅からは小旅行気分になり保津峡の溪谷など外の景色を眺めていると時間を忘れました。こんなのんびりした気分になれるのも母校の魅力の一つでしょうね。理事会に行くのが楽しみになりました。

2足の草鞋の片割れですが、今期から公益社団法人日本放射線技術学会の副代表理事を仰せつかり、全国に出向いてご挨拶をさせていただく機会も増えました。機会がありましたら是非声をかけて下さい。当学会はご存知のように、山田先生、元京大の野原先生、藤田先生などの大先輩が学会長を歴任され、これまで多くの諸先輩方が学会運営にも精力的に関わってこられました。しかし、最近では学会発表や学術活動を精力的に行い、学会の運営にも積極的に関り、自己研鑽を志望する学友会会員が少なくなった印象があり残念な思いです。放射線技術学は世界でもユニークな学問体系であり、日本の技師はこれをリードする力を持っていると考えています。学校等で学んだ基礎知識に独自の発想を加えて学術活動をリードできる人材の育成が望まれます。診療放射線技師として多角的な社会貢献を行うに当たって、学術活動は社会へ還元しつつ存在をアピールできる重要な活動です。7月の大阪支部学友会総会では、新企画として会員による学術講演を開催したところ、事前登録制にも関わらず地域を超えて多くの会員に参集いただきました。学友会活動の活性化と学術的なつながりの輪を作る事業形態として参考になれば幸いです。

今後は理事という立場で、学友会の活性化と有効利用の推進について、微力ながらお手伝いさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

以上